

9.3 一般公開

天文台では 1999 年から毎年一回一般公開を行っており、今年度も 9 月 30 日 (土) に花山、飛驒の両天文台で実施されました。実際に行われた企画はとても盛り沢山で、主だったものを挙げると次のようになります。

- (1) 花山天文台のザートリウス 18cm 屈折望遠鏡、70cm シーロスタット望遠鏡、45cm 屈折望遠鏡や飛驒天文台の太陽磁場活動望遠鏡、ドームレス太陽望遠鏡、65cm 屈折望遠鏡等の設備やそれを用いて得られた最新の研究成果の紹介
- (2) テレビ会議システムを利用して両天文台をつなぎ、飛驒天文台で撮られている太陽画像をリアルタイムで解説するデジタルライブ
- (3) より一般的で基礎的な天文学の講演や解説ポスターの展示、ポスターを見ることで正解の分かるクイズラリー (回答者全員に記念品進呈、全問正解者には 2 つ)
- (4) 黒点スケッチを行ったり太陽光を集めて目玉焼きを作ったり、廃棄 CD を利用して分光器を作って色々な光を覗いてみる等の体験もの
- (5) 計算機による天体現象のシミュレーション解説
- (6) 45cm 屈折望遠鏡 (花山) や 65cm 屈折望遠鏡 (飛驒) 等を実際に目で覗く天体観望





今年は幸い好天に恵まれ、昼は太陽、夜は月のクレーターや木星の縞模様、木星の周りのガリレオ衛星などをしっかり見て頂くことができました。

参加者は幼児から年配の方まで年齢層は幅広く、京都府や岐阜県の方を中心に中国地方から関東地方まで、花山天文台で約 400 人、飛騨天文台で約 100 人の方に来て頂きました。アンケート用紙を配布し感想を書いて頂きましたが、ほとんどの方により評価をして頂き、「学生さんの案内や解説が丁寧でよかった。」「太陽のスペクトルがきれいだった。」(花山)、「あんな山の中にこんなに大きな施設があるのに驚いた。」「太陽やブラックホールで不思議なことが沢山起こっているのがよくわかった。」(飛騨)などの感想を頂きました。我々としても普段の研究や教育とは全く違う活動で、いい刺激を受けることができました。

今後も天文学の面白さ、奥深さを一般の方にもっと知って頂くために、この活動を続けていくつもりです。しかし、これだけの催し物をするのには天文台の職員やポスドク研究員・院生だけでは人手が足りず、京大の沢山の学生や一般のボランティアの方々に協力して頂きました。ここにお礼を申し上げます。

(野上)